

# れいげん

大光山 靈源寺 寺報 第七号



発行：2016年9月

## < 住職あいさつ >

先日、十五夜のお月さまを観ました。その日の札幌は、夕方に雨が降ったので、お月見はできないかなと思いましたが、夜が更けると円満なお月さまを拝むことができました。

西行法師の歌に【なにごとみ 変わりのみゆく 世の中に 同じ影にて 澄める月かな】とあります。西行法師は、平安末期から鎌倉初期にかけての動乱期を生きた方です。浄土宗の宗祖である法然上人も同時代の方です。時代や価値観が目まぐるしく変化するこの世の中であって、お月さまは、変わることなく闇夜を照らしてくださっています。

現代社会もまた、一分一秒刻一刻と変化し、慌ただしい日々を送っています。しかしながら、如来さまは、いつでもどこでも誰でも変わることなく、まるでお月さまのように私達の心の闇を照らしてくださっています。秋の夜空に映えるお月さまを眺めつつ、如来さまのやさしさを感じ、心やすらげき日暮しを送りたいものです。



(知恩院のもみじ)

## < 浄土宗① >

宗祖法然上人のはなし⑦ (善導大師 編)

今回この項を書き始めるにあたり、前回までを読み返してみても、浄土宗をご紹介するにあたり、大変重要なことが抜けていたことに気がつきました。

浄土宗で宗祖といえば法然上人ですが、さらに高祖として善導大師というお坊さんも永く並び称されています。今回ご紹介するのはこの善導大師というお坊さんについてです。

善導大師とは唐の時代の中国、西遊記でおなじみの玄奘三蔵法師と同じ時代に長安などで活動された浄土教僧侶です。法然上人の時代よりも約五百年前に善導大師もまた同じくして、広く衆生のために【すべての人々が解脱する(救われる)事ができる教え】を探し阿弥陀如来のお念仏の教えにたどり着いたといわれています。長安では阿弥陀経を写経しては街の人々に与えたり、極楽浄土の様子を絵に書いて紹介したりと庶民への布教に力を入れていたことが想像できます。

比叡山で苦悩していた法然上人が出会ったお念仏の教え、これこそが善導大師が著された【観経疏】でした。観経疏に説かれる「一心専念弥陀名号 行住坐臥 不問時節久近 念念不捨者 是名正定之業 順彼仏願故」法然上人はこの一文を見て、お念仏こそすべての人々が救われる教えであることに間違いないと確信し、浄土宗を開かれました。つまり、善導大師がいなければ今日、浄土宗の存在は無かったかもしれないというくらい浄土宗にとって重要なお坊さんです。

### 〈靈源寺の歴史～歴代管理人編③〉

石山祐道ゆうどう(北海道 長万部町出身)

平成22年春に13年間の長きにわたり管理人をして  
おられた稲童丸ご夫妻が郷里の札幌へと帰られるこ  
ととなり、次の管理人さんを探し、引き継がなければ  
ならなくなりました。

稲童丸さんは僧籍を持っていなかったため、葬儀や  
法事の際には現在もおられる高瀬さんというお坊さ  
んがおこなっていました。高瀬さんは杉並区にある西  
方寺や新宿にある西光庵も手伝っていましたので、常  
駐の管理人というわけにはなかなかいきません。  
ちょうど同年に葬儀第二会場として建てられた博眞  
閣が納骨堂へと新たに変貌を遂げる時期でしたので、  
貸齋場メインのお寺から、お参りの方も頻繁に來られ  
るようになるお寺に変化していくという確信を持ち、  
これからは僧侶が在駐しているお寺であることがベ  
ストというかそうであるべきだということでお坊さ  
ん選びを始めました。

なかなか適任の方が見つからない中、住職が妙案を  
思い浮かべました。靈源寺の本寺である札幌新善光寺  
から一人派遣してはどうだろうかということです。  
ちょうど札幌もお檀家さんのご自宅へ毎月お参りを  
する【月参り】という風習が昨今の家族形態の変化な  
どにより、だんだんと少なくなってきました。

### 〈靈源寺の歴史 続き〉

新善光寺にはお坊さんが多数おりましたので、一人派  
遣しても大丈夫だろうと考え、その中でも人当たりが  
よく東京にも精通している石山祐道さんというお坊  
さんを派遣することにしました。石山さんは二つ返事  
で快諾してくださり、札幌の住まいも引き払い東京へ  
とやって來られるのでした。



( 石山祐道師 現在は再び札幌新善光寺勤務に )



( 愛用の木魚 )

### ◆行事予定

平成28年9月25日(日) 午前11時より

・秋彼岸法要

平成29年3月(予定)

・春彼岸法要

### ◆編集後記

いつもお読みいただきありがとうございます。  
毎回、浄土宗の項を書くにあたって、学生時代の浄土  
学のテキストやノートを読み返すのですが、習ったこ  
との多くをかなり忘れてしまっている事に気が付き  
ます。  
かなり自分自身のためにもなっています。  
これからもお付き合い下さい。

(中村尚平)

### ◆次号予告

次号は平成29年3月の発行予定です。

〒142-0063

東京都品川区荏原1-1-2

宗教法人大光山靈源寺

TEL03-3494-1083 FAX03-3494-6319

Mail: [reigenji@gmail.com](mailto:reigenji@gmail.com)

ホームページ: <http://reigenji.konjiki.jp/>

発行人/太田眞琴